

2026年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年5月14日

上場会社名 サイタホールディングス株式会社
コード番号 1999 URL <https://saita-hd.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
配当支払開始予定日
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 福
TEL 0946-22-3875

(百万円未満切捨て)

1. 2026年6月期第3四半期の連結業績(2025年7月1日～2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期第3四半期	5,504	8.5	491	39.7	584	27.7	379	9.3
2025年6月期第3四半期	6,017	76.5	815	414.4	808	19.7	418	31.6

(注) 包括利益 2026年6月期第3四半期 506百万円 (1.4%) 2025年6月期第3四半期 513百万円 (20.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期第3四半期	601.71	
2025年6月期第3四半期	663.71	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年6月期第3四半期	9,202	6,813	66.6	9,728.56
2025年6月期	9,343	6,441	62.1	9,201.65

(参考) 自己資本 2026年6月期第3四半期 6,133百万円 2025年6月期 5,801百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期		0.00		70.00	70.00
2026年6月期		0.00			
2026年6月期(予想)				70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年6月期の連結業績予想(2025年7月1日～2026年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,650	2.4	580	41.2	580	39.9	330	32.4	523.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年6月期3Q	661,000 株	2025年6月期	661,000 株
期末自己株式数	2026年6月期3Q	30,548 株	2025年6月期	30,548 株
期中平均株式数 (四半期累計)	2026年6月期3Q	630,452 株	2025年6月期3Q	630,453 株

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 有 (任意)

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっては、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(収益認識関係)	10
3. 四半期建設事業受注の概況	11

[期中レビュー報告書]

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方で、米国の政策動向に加え、中東情勢の緊迫化など地政学リスクが高まっており、世界的な資源・エネルギー・原材料価格の上昇が続くなど、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループの主力事業であります建設業界におきましては、公共投資は底堅く推移し、民間設備投資も持ち直しの傾向にありますが、建設資材価格・原材料価格の高騰や労働者不足による労務費の高止まり等も続いており、経営環境は依然として不透明な状況であります。

このような状況下、当社グループは総力を挙げて受注活動を行うとともに、グループ各社の収益改善に努めて参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は55億4百万円（前年同四半期比8.5%減）となり、営業利益4億9千1百万円（前年同四半期比39.7%減）、経常利益5億8千4百万円（前年同四半期比27.7%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億7千9百万円（前年同四半期比9.3%減）となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと次のとおりであります。

(建設事業部門)

当第3四半期連結累計期間の受注高は20億9千8百万円（前年同四半期比19.8%減）、完成工事高は26億6千3百万円（前年同四半期比7.7%増）、営業利益は2億1千9百万円（前年同四半期比17.5%減）となりました。

(建材事業部門)

当第3四半期連結累計期間の売上高は23億4千1百万円（前年同四半期比23.4%減）、営業利益は4億4百万円（前年同四半期比43.8%減）となりました。

(酒類事業部門)

当第3四半期連結累計期間の売上高は2億2千2百万円（前年同四半期比8.2%減）、営業利益は0百万円（前年同四半期は営業損失3千万円）となりました。

(その他の事業部門)

当第3四半期連結累計期間の売上高は2億7千7百万円（前年同四半期比13.0%増）、営業利益は2千2百万円（前年同四半期比5.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は65億6千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億7百万円減少いたしました。これは主に受取手形・完成工事未収入金等が3億4千1百万円減少いたしました。現金預金が5千万円増加したことによるものであります。固定資産は26億4千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ6千6百万円増加いたしました。これは主に投資その他の資産が5千3百万円、有形固定資産が1千3百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、92億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億4千1百万円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は18億7千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億7千3百万円減少いたしました。これは主に未払法人税等が2億9千3百万円、短期借入金が1億6千3百万円減少したことによるものであります。固定負債は5億1千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ6千万円増加いたしました。これは主に長期借入金4千1百万円、繰延税金負債が2千1百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、23億8千9百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億1千2百万円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は68億1千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億7千1百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益3億7千9百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は66.6%（前連結会計年度末は62.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年6月期決算発表時(2025年8月18日)に公表した通期の業績予想については現時点での変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	4,684,693	4,735,500
受取手形・完成工事未収入金等	1,863,467	1,521,603
棚卸資産	196,053	208,139
その他	24,162	95,847
流動資産合計	6,768,375	6,561,091
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	259,219	243,541
機械、運搬具及び工具器具備品(純額)	618,349	638,751
土地	985,683	1,000,329
リース資産(純額)	7,034	10,125
その他	16,640	7,715
有形固定資産合計	1,886,927	1,900,464
無形固定資産		
採石権	7,031	6,236
その他	4,363	3,983
無形固定資産合計	11,394	10,220
投資その他の資産		
投資有価証券	182,040	266,647
保険積立金	206,851	220,596
繰延税金資産	66,087	31,225
退職給付に係る資産	93,770	89,541
その他	209,155	203,626
貸倒引当金	△80,941	△80,941
投資その他の資産合計	676,964	730,696
固定資産合計	2,575,286	2,641,381
資産合計	9,343,662	9,202,473

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	327,683	394,055
短期借入金	1,077,334	913,712
リース債務	3,240	3,376
未払費用	143,427	61,145
未払法人税等	299,036	5,546
未成工事受入金	285,953	190,438
工事損失引当金	3,950	16,150
賞与引当金	11,882	56,192
その他	296,812	235,362
流動負債合計	2,449,319	1,875,978
固定負債		
長期借入金	186,005	227,782
リース債務	4,551	7,940
繰延税金負債	13,468	34,955
退職給付に係る負債	146,624	151,296
役員退職慰労引当金	61,730	59,441
その他	40,093	31,894
固定負債合計	452,473	513,310
負債合計	2,901,792	2,389,288
純資産の部		
株主資本		
資本金	942,950	942,950
資本剰余金	594,649	594,649
利益剰余金	4,345,365	4,590,997
自己株式	△35,892	△35,892
株主資本合計	5,847,073	6,092,705
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	58,113	117,100
為替換算調整勘定	△103,990	△76,416
その他の包括利益累計額合計	△45,876	40,683
非支配株主持分	640,672	679,795
純資産合計	6,441,869	6,813,184
負債純資産合計	9,343,662	9,202,473

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
売上高		
完成工事高	2,473,921	2,663,432
兼業事業売上高	3,543,701	2,841,051
売上高合計	6,017,622	5,504,484
売上原価		
完成工事原価	2,057,560	2,343,426
兼業事業売上原価	2,040,828	1,792,596
売上原価合計	4,098,389	4,136,023
売上総利益		
完成工事総利益	416,360	320,006
兼業事業総利益	1,502,873	1,048,454
売上総利益合計	1,919,233	1,368,460
販売費及び一般管理費	1,103,892	876,686
営業利益	815,341	491,774
営業外収益		
受取利息	2,040	6,982
受取配当金	2,749	3,732
固定資産賃貸料	22,315	18,626
為替差益	-	59,545
その他	26,804	17,946
営業外収益合計	53,909	106,834
営業外費用		
支払利息	7,569	8,990
支払保証料	-	2,435
その他	53,413	3,013
営業外費用合計	60,982	14,439
経常利益	808,268	584,170
特別利益		
固定資産売却益	45	19,902
圧縮未決算特別勘定戻入額	9,570	8,198
特別利益合計	9,616	28,101
特別損失		
固定資産除却損	290	201
減損損失	6,290	2,636
特別損失合計	6,580	2,838
税金等調整前四半期純利益	811,304	609,433
法人税、住民税及び事業税	293,773	158,931
法人税等調整額	23,629	30,728
法人税等合計	317,403	189,659
四半期純利益	493,900	419,773
非支配株主に帰属する四半期純利益	75,464	40,424
親会社株主に帰属する四半期純利益	418,435	379,348

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	493,900	419,773
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24,195	58,986
為替換算調整勘定	44,041	27,573
その他の包括利益合計	19,846	86,560
四半期包括利益	513,746	506,333
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	438,282	465,909
非支配株主に係る四半期包括利益	75,464	40,424

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年7月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	202,540千円	166,999千円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2024年7月1日 至2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	建材事業	酒類事業	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	2,473,921	3,055,866	242,157	5,771,945	223,129	5,995,075	-	5,995,075
その他の収益(注) 4	-	-	-	-	22,547	22,547	-	22,547
外部顧客への売上高	2,473,921	3,055,866	242,157	5,771,945	245,676	6,017,622	-	6,017,622
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21,858	67,676	505	90,040	22,432	112,472	△112,472	-
計	2,495,779	3,123,543	242,663	5,861,986	268,108	6,130,095	△112,472	6,017,622
セグメント利益又は 損失(△)	266,624	719,223	△30,973	954,874	23,568	978,443	△163,102	815,341

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石油販売事業、不動産事業、太陽光発電事業、環境事業、警備事業及び乳酸菌事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額163,102千円には、セグメント間取引消去4,517千円、各報告セグメントに配分していない全社費用167,619千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の収益22,547千円は、不動産事業の売上高であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「酒類事業」セグメントにおいて、機械、運搬具及び工具器具備品に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては2,719千円であります。

「その他」セグメントにおいて、機械、運搬具及び工具器具備品に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては3,570千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2025年7月1日 至2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	建材事業	酒類事業	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	2,663,432	2,341,006	222,408	5,226,847	255,216	5,482,064	-	5,482,064
その他の収益(注) 4	-	-	-	-	22,419	22,419	-	22,419
外部顧客への売上高	2,663,432	2,341,006	222,408	5,226,847	277,636	5,504,484	-	5,504,484
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,659	19,656	476	24,792	16,644	41,436	△41,436	-
計	2,668,092	2,360,662	222,884	5,251,640	294,280	5,545,920	△41,436	5,504,484
セグメント利益	219,959	404,026	60	624,046	22,172	646,218	△154,444	491,774

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石油販売事業、不動産事業、太陽光発電事業、環境事業、警備事業及び乳酸菌事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額154,444千円には、セグメント間取引消去7,911千円、各報告セグメントに配分していない全社費用162,356千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. その他の収益22,419千円は、不動産事業の売上高であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「酒類事業」セグメントにおいて、機械、運搬具及び工具器具備品に係る減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては2,636千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等の注記)」に記載のとおりであります。

3. 四半期建設事業受注の概況

(株式会社才田組受注高)

	受注高	
	千円	%
2026年6月期第3四半期累計期間	1,892,341	△23.2
2025年6月期第3四半期累計期間	2,463,045	5.7

- (注) 1. 受注高は、当該四半期までの累計額であります。
 2. パーセント表示は、前同四半期比増減率であります。

受注実績内訳

			2026年6月期 第3四半期累計期間		2025年6月期 第3四半期累計期間		比較増減	増減率
			千円	%	千円	%	千円	%
建設事業	土 木	官公庁	979,719	51.8	1,119,467	45.5	△139,748	△12.5
		民 間	346,433	18.3	640,340	26.0	△293,907	△45.9
		計	1,326,152	70.1	1,759,808	71.4	△433,655	△24.6
	建 設	官公庁	388,783	20.5	81,000	3.3	307,783	380.0
		民 間	177,406	9.4	622,237	25.3	△444,831	△71.5
		計	566,189	29.9	703,237	28.6	△137,048	△19.5
	合 計	官公庁	1,368,502	72.3	1,200,467	48.7	168,034	14.0
		民 間	523,839	27.7	1,262,577	51.3	△738,738	△58.5
		計	1,892,341	100.0	2,463,045	100.0	△570,703	△23.2

- (注) パーセント表示は、構成比率であります。

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年5月14日

サイタホールディングス株式会社

取締役会 御中

如水監査法人

福岡県福岡市

指定社員 公認会計士 松尾 拓也
業務執行社員

指定社員 公認会計士 飯村 光敏
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているサイタホールディングス株式会社の2025年7月1日から2026年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2026年1月1日から2026年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年7月1日から2026年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、証券会員制法人福岡証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、証券会員制法人福岡証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、証券会員制法人福岡証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、証券会員制法人福岡証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、証券会員制法人福岡証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれておりません。